2026 年 11 月 1 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒8 番（KH 兄）
『御旨のままに』

聖書⇒ヨハネの手紙一 4 章 10~11 節（SK 兄）
『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。』

（祈り）

聖書⇒ルカによる福音書 14 章 15~24 節（MM 姉）
『食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。すると皆、次々に断った。最初の人は、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言った。ほかの人は、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしましたが、まだ席があります』と言うと、主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。言っておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』」』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒461 番
『聞けおとずれ』

聖書⇒ルカによる福音書 2 章 13~15 節（KT 姉）
『すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、／
地には平和、御心に適う人にあれ。」
天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。』

聖書⇒イザヤ書 55 章 1~2、8~11 節
『渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。
銀を持たない者も来るがよい。
穀物を求めて、食べよ。
来て、銀を払うことなく穀物を求め／
価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。
なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い／
飢えを満たさぬもののために労するのか。
わたしに聞き従えば／
良いものを食べることができる。
あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／
わたしの道はあなたたちの道と異なると／
主は言われる。
天が地を高く超えているように／
わたしの道は、あなたたちの道を／
わたしの思いは／
あなたたちの思いを、高く超えている。
雨も雪も、ひとたび天から降れば／
むなしく天に戻ることはない。
それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ／
種蒔く人には種を与え／
食べる人には糧を与える。
そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も／
むなしくは、わたしのもとに戻らない。
それはわたしの望むことを成し遂げ／
わたしが与えた使命を必ず果たす。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒122 番（KH 兄）
『十字架の上に』

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 53~58 節（KH 兄）
『イエスは言われた。「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」』

（式）

礼拝讃美歌⇒155 番
『神の小羊は』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 13 節（CN 兄）
『天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもいない。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 38，51 節
『わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」』

聖書⇒ヨハネによる福音書 8 章 23 節
『イエスは彼らに言われた。「あなたたちは下のものに属しているが、わたしは上のものに属している。あな

たたちはこの世に属しているが、わたしはこの世に属していない。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 8 章 56、57~59a 節
『あなたたちの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。そして、それを見て、喜んだのである。」

ユダヤ人たちが、「あなたは、まだ五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか」と言うと、イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 17 章 5 節
『父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。』

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 63~66 節
『イエスは黙り続けておられた。大祭司は言った。「生ける神に誓って我々に答えよ。お前は神の子、メシアなのか。」イエスは言われた。「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言っておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗って来るのを見る。」そこで、大祭司は服を引き裂きながら言った。「神を冒瀆した。これでもまだ証人が必要だろうか。諸君は今、冒瀆の言葉を聞いた。どう思うか。」人々は、「死刑にすべきだ」と答えた。」

聖書⇒ルカによる福音書 15 章 11~20 節（KH 兄）
『また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。』

「長者窮子（ちょうじゃぐうじ）の喩え」（妙法蓮華経信解品第四）
『ある父親の元から息子である男が家出をしてしまいます。男は貧しい生活をしながら諸国を放浪しています。父親は必死になって男を探しますが、見つけ出す事は出来ませんでした。ある時、国に戻ってきていた男を見

かけた父親は、慌てて連れ戻そうとしますが、男は父親の顔すら忘れており、恐怖のあまり怯え逃げだそうとします。そこで考えた父親は、従者に男を屋敷に雇い入れ便所掃除をさせるように伝えました。男は真面目に働き、またその生活に満足していました。次に父親は男に自身の財産の管理運用をするよう命じました。そこでも男はわずかなお金もごまかす事なく仕事を勤め上げました。そして父親が病に倒れた時、初めて男が自身の実の息子である事を伝え、その財産を相続するように言い残します。男は今度はそれを素直に受け入れ、この上ない喜びを得たのでした。』

聖書⇒イザヤ書 62 章 5 節
『若者がおとめをめとるように／
あなたを再建される方があなたをめとり／
花婿が花嫁を喜びとするように／
あなたの神はあなたを喜びとされる。』

礼拝讃美歌⇒6 番（KH 兄）
『遥かに迷いし』

《建徳要旨》